

8512“男女分業”的神話は崩壊した。

“男女分業”的神話は崩壊した。社会を運営するのは男で、家庭を守るのは女だった時代は終わった。男は経済力があるからと敬い、男に仕えていた女がある日突然「男であることはそれだけでえらいって？ バカにしないでヨ！」と家庭を飛び出し、社会に入りこんで経済力を獲得する事態が頻発した。敵を甘く見ていた男はただもうオロオロするばかり。家事は？ 子供は？ オレはどうなるんだろう？ 長年わが世の春を謳歌していた男たちもついにヤキがまわった！

クリスチアーヌ・コランジュ/寺田恕子訳『男達よ、元気かい？』

(早川書書房)の腰巻きから

[許容訳例]

The myth of the division of labor between the sexes has collapsed. The time is past when managing society was a man's job and housekeeping a woman's. There have occurred many cases such as the following. The woman, who had respected and waited on her husband on account of his economic ability, suddenly realized that just being a man was not necessarily so wonderful in itself and that men made light of women. She rushed out of the home and into the world of affairs, thus gaining an economic power of her own. The man, who had underestimated her, was completely at a loss. "Who will do the housekeeping?" he worried, "or take care of us, the children and me?" Men have lorded it over society for centuries, but now they are losing their power.

[翻訳例]

The myth of the division of labor between the sexes has collapsed. The time is past when running society was a man's job and looking after the home a woman's. It has often happened that the woman, who had hitherto looked up to the man and had waited on his needs on account of his earning ability, suddenly inquired one day what was so wonderful about the simple fact of being a man and decided she was tired of being duped. And bursting out of the home she plunged into the world of affairs and acquired an earning power of her own. The man, who had underestimated the foe, could only look on in dismay. What had happened? What about the children? What was going to happen to himself? Men, who had lorded it over society for so long, finally found their power waning.

●「翻訳」のための「日本文の分析」

この文のむずかしさは、広告・宣伝文であるために非常に簡潔であること、また、いかにも日本文らしく、一般論と特別事例の区別が英語ほど明確でないこと、地の文の中に直接話法的な表現がそのまま用いられていることです。したがって、英語的に補正しなければ、充

分に意味の通じる英文にならないということになります。この点を重点的に考慮して日本文を分析してみましょう。

まず、この日本文は、全体として一般論として述べているのだろうか。それとも、特別な事例として述べているのだろうか。「バカにしないでヨ！」といった、いかにも特定の相手に向かって言ったセリフのように思える書き方をしていますが、これは一般的な男と一般的な女の関係を述べたものでしょう。したがって、全体を一般論として統一しなければならないと思われます。となると、

- 「“男女分業”の神話は崩壊した。」は「(一般論として) “男女分業”という、例の神話(the myth)は崩壊してしまった。」と解さなければならぬでしょう。
- 「社会を運営するのは男で」は、次の「家庭を守るのは女だった」と対照して考えると、「社会を運営するのは男の仕事 (の一つ)」となり、「家庭を守るのは女の仕事 (の一つ)」ということになります。
- 「・・・だった時代は終わった」は、期限が来て終ったのではなく、「・・・だった時代はすぎ去ったのだ」(The time is past when...)と考えなければなりません。
- 「男を経済力があるからと敬い、・・・する事態が頻発した」は、「(今まで)・・・していた (例の) 女 (たち) が・・・するという事態がしばしば起こった。」(It has often happened that...)と考えなければならぬでしょう。そして、この「起こった」は、過去のあるときのことではなく、現在起きていることですから現在完了を用いることになるでしょう。
- 「男を経済力があるからと敬い・・・」の「経済力」は「その男の収入力」と考えなければならないでしょう。それで、ここは「その男に収入力があるという理由で敬ってきた・・・」とすることになります。
- 「男に仕えてきた」は「その男に仕えてきていた」と考えなければなりません。
- 「男であることはそれだけで偉いって？ バカにしないでヨ！」は、そのまま訳すわけにはいきません。日本語の直接話法は相手の言った言葉をそのまま伝えたいとする意図よりも、こんな風に感情を込めて言ったのだということを伝える意図の方が強いと思います。ところが、英語における直接話法は、相手の言った言葉をそのまま伝えるという意図しかありません。むしろ、発言者の気持ちは地の文であらわします。したがって、ここは内容をとって訳さなければなりません。
- 「家庭を飛び出し、社会に入りこんで経済力を獲得する・・・」は「彼女は家庭を飛び出して、社会に入って、収入力を獲得した」と考えなければなりません。
- 「敵を甘く見ていた男はただもうオロオロするばかり」は「敵 (の力) を低く見積ってた男は、ただうろたえるだけであった。」と解釈します。
- 「家事は？ 子供は？ オレはどうなるんだろう？」は、その男の自問自答とし、しかも、描出話法を使って、そのまま地の文の中に入れることになりますが、「家事はどうなるんだろう。子供たちはどうなるんだろう。オレはどうなるんだろう」と補う必要があります。
- 「長年わが世の春を謳歌していた男たちにもついにヤキがまわった！」は、このままでは

意味が通じません。「わが世の春を謳歌していた」は英語にも決まり文句がありますが、「ヤキがまわった」は「力がかげってきた」くらいに言いかえないと意味が通じません。

このようなことを念頭に置いて変換処理をすることになります。

■“男女分業”的神話は崩壊した. (8512)

★「“男女分業”」は the “division of labor between men and women”でも、もちろん、かまいません、翻訳としては the division of labor between the sexes の方がもっと自然な英語です。

★「神話」は the myth です。ここで the を付けるのは「例の・衆知の」という了解情報として扱いたいからです。

★「崩壊した」は has collapsed がいいでしょう。decay というのは、collapse ほど徹底的なニュアンスはなく、たとえば、歯が虫歯になってだんだん悪くなるというように、部分的にくずれしていくというプロセスをあらわす動詞ですから has begun to decay は可能ですが has decayed はちょっとむりです。辞書には break down; fall down; give away; crumble などですがでていますが、fall down 以外は使って使えないことはないですが、ここは collapse が一番いいでしょう。

■社会を運営するのは男で、家庭を守るのは女だった時代は終わった. (8512)

★「社会を運営するのは」は「社会を運営すること」として、動名詞で managing society でも通じますが、これでは「社会をあずかって運営している」という感じがします。ここは running society (社会を動かしている) がいいでしょう。なお、この「動名詞」(過去・恒久性をあらわす)を「to 不定詞」(未来・一時性をあらわす)に代えることはできません。

★「家庭を守るのは」も「家庭を守ることは」として housekeeping でも決して間違いではありませんが、これは「家事」ということで、「家庭を守る」よりちょっと意味が狭くなります。ここは looking after the home がいいでしょう。なお、home-making(これには「守る」という意味は含まれていません)も許されるでしょう。

★「(・・・する)男」は「(・・・することは)男の仕事」で a man's job ですし、「(・・・する)女」は a woman's job です。a man's と a woman's (代表単数) は、それぞれ, men's; women's (総称複数) と代えることもできますが、the man's と the woman's は駄目です。こうすると、一組の夫婦を想定したことになってしまいます。ここは結婚という狭い枠内の話ではありませんから the を使うことは出来ません。

★「(・・・の)時代は終った」ですが、The time is over というのは、始めがあり終わりがあるようなはっきりしたある一定の期間・時代が終わってしまったというときに使い、英語としては、ここでははっきりしすぎると思われます。この日本文で言おうとしている意味は「・・・は過ぎてしまった」というニュアンスになると思います。それで、ここでは The time is past を使いたいと思います。ですから、come to an end; close; finish なども避けたほうがいいです。

■男は経済力があるからと敬い、男に仕えていた女がある日突然「男であることはそれだけでえらいって？ バカにしないでヨ！」と家庭を飛び出し、社会に入りこんで経済力を獲得する事態が頻発した。(8512)

★「経済力」は his earning power でしょう。なお、economic ability なら許せますが economic power(経済的に社会的に影響を及ぼすことが出来る力)はダメです。

★「～があるからと」は for でもいいですが、「～あるという理由で・～があるために」として on account of～も使えます。

★「敬う」は「すごい・えらいと尊敬する」ということですから respect (尊敬・尊重する) ではちょっと物足りないような気もします。look up to ぐらいがよいでしょう。

★「仕える」は work for; attend on; wait on などありますが、wait on his needs がいいでしょう。attend on はちょっと「傳く」の感じがします。

●「連体修飾節+不定代名詞的体言」(男を経済力があるからと敬い、男に仕えていた女)

「男を経済力があるからと敬い、男に仕えていた女」は整理すると「収入力がある〔からと〕、男を敬〔い〕仕えていた女」ということで、「連体修飾節 (A の理由で、B し、C していた) + 不定代名詞的体言 (女)」ですから、英語では「名詞(woman) + 関係詞節(who…B and C, on account of A)」です。この場合、a woman (ある女) ではなく「(すでに話題にしている了解済みの) 件の女」ですから the woman が「女の側」という意味になっていいです。なお、the woman who…とコンマなしでもいいですが、「コンマ+who…+コンマ」で挿入的にした方がいいです。コンマで囲うことによって、追叙的に理由を述べるようにしたり、断りを入れて納得させたり、カテゴリー化を避けたりすることが出来るからです。

◆現在完了

「男は経済力があるからと敬い、男に仕えていた女がある日突然・・・」の「敬い、仕えていた女・・・」は現在完了を使って「女は、これまで・・・していたのに、あろうことか、ある日突然・・・」という主観的感情を込める必要がありますから現在完了を使って、It has often happened that the woman, who had looked up to… and had waited on his needs, …とすると、日本文のニュアンスを含ませることが出来ます。

★「ある日突然」の「ある日」は「突然」の枕詞のようなものです。したがって、one day を加えてもよいし、suddenlyだけでもいいと思います。

★「・・・と言って・・・」は inquired…とか、realized that…などです。

★「男であること」は(the fact of) being a man とか to be a man です。

★「(男であることは) それだけで・・・」は(the simple fact of) being a man とか just to be a man などが可能です。

★「偉い」は、普通、「優れた」の意味を含めて great とか distinguished ですが、これらは客観的な評価に使われるものです。また respectable は「(常識的に) ちゃんとした; まじめな」という意味合いで、いわゆる「尊敬すべき」という意味では使いません。ここは「偉いって?」ですから、男自身が「どうだすごいだろう」と「男であることを男本人が主観的に

〔勝手に〕謳歌して」いる〔あるいは、言っている〕ことですから be so wonderful (about being a man)も使えます。

★「バカにしないでヨ」も難しいです。これに相当する英語は Come of it!です。これは「そんなこと)簡単に信じられるものですか、 ばかなこと言わないで[ばかにしないで]」という意味で使う表現ですが、 前後の文体との関係を考えなければなりません。

●英語では地の文に直接話法を混在させない

最初の「日本文の分析」で「●「男であることはそれだけで偉いって？ バカにしないでヨ！」は、そのまま訳すわけにはいきません。日本語の直接話法は相手の言った言葉をそのまま伝えたいとする意図よりも、こんな風に感情を込めて言ったのだということを伝える意図の方が強いと思います。ところが、英語における直接話法は、相手の言った言葉をそのまま伝えるという意図しかありません。むしろ、発言者の気持ちは地の文であらわします。したがって、ここは「内容をとって訳さなければなりません」と書きました。つまり、直接話法で書くと suddenly one day declared: “So you think just to be a man is something wonderful? Come off it!”（「男であることはそれだけで偉いって？ バカにしないでヨ！」）となるのですが、英米においては、日本文に使われるような形で直接話法を使いませんから、直接話法で書かれているところを「男であるからといって一体何が偉いっていうの、もうだまされるのはごめんよ」と言った感じで間接話法にして what was so wonderful about (the simple fact of) being a man and decided she was tired of being duped (dupe という言葉は「だます」という意味です) ぐらいにするか、あるいは、内容をとって意訳して that just being a man was not necessarily so wonderful in itself and that men made light of women とするかないでしょう。

★「家庭を飛び出し・・・」は She rushed out of the home/ She burst out of the home ぐらいです。jump out of～は、たとえば、「二階・窓から飛び降りる」というような場合に使うものです。

★「社会に入りこむ」は enter society でも間違いではありませんが、厳密に考えると「家庭」も society の中に入りますから、ここでは合わないと思われます。で、plunge [make her way] into the world of affairs ぐらいでしょう。the world of affairs の affairs という言葉は business に近いのですが、もう少し広い意味になります。なお、plunge の代わりに rush も使うことができます。

★「経済力を獲得する」は acquire an earning power of her own ぐらいです。acquire の代わりに gain も使えます。

● [で] (動作順次)

こここの [で] は「動作順次」ですから and でしょう。

■敵を甘く見ていた男はただもうオロオロするばかり。 (8512)

★「敵を甘く見る」は「敵(の力)を低く見積る」ということです。 underestimate the foe [her] でいいでしょう。foe というのは enemy と同じ意味ですが、この日本語の「敵」と同じ感

じで、ちょっと大げさでユーモラスな感じが出ると思います。なお、「甘く見る」に *be (too) complacent* (自己満足的で・のうのうとして) も使うことができます。

● 「連体修飾節 + 不定代名詞的体言」(敵を甘く見ていた男)

「敵を甘く見ていた男」は「連体修飾節(敵を甘く見ていた) + 不定代名詞的体言(男)」ですから、英語では「名詞(man) + 関係詞節(who had underestimated the foe)」です。ここも、前の「男を経済力があるからと敬い、男に仕えていた女」の場合と同じように、「(すでに話題にしている了解済みの) 件の男」ですから the man として、挿入的に「コンマ + who… + コンマ」にすると、追叙的に理由を述べたり、断りを入れて納得させたり、カテゴリー化を避けたりすることが出来ます。the man(,) who had underestimated the foe(,)…です。

★「オロオロするばかり」は「どうしたらよいかわからず、ただうろたえるばかり」と解釈して、he could only look on in dismay とか、he was in [got into] a dither/ was completely at a loss and worried とかです。dither は、たとえば、I dithered between going or not going. (I just couldn't decide which was best,) のように、どっちにしたらよいか迷って困っている時に使う表現です。なお、辞書には *be flustered* も出ていますが、これは「狼狽する；慌てる」という意味で、ちょっと違れます、

■ 家事は？ 子供は？ オレはどうなるんだろう？(8512)

● 描出話法・中間話法の使い方

「家事は？ 子供は？ オレはどうなるんだろう？」は、直接話法で書くと、"Who will do the housekeeping?" he worried, "or take care of us, the children and me?"になりますが、ここはその男の自問自答(あるいは、心の中で思い描いたこと)として、描写話法・中間話法で What about the housework? What about the children? What about himself? として、そのまま地の文の中に入れます。この方が直接話法にするより英語的です。

■ 長年わが世の春を謳歌していた男たちにもついにヤキがまわった！(8512)

★「長年」は *for so long* とか、ちょっと大げさに *for centuries* くらいがいいでしょう。

★「わが世の春を謳歌する」は、ほぼ決まった表現だと思いますが、これは英語の *lord it over society* に近いような気がします。これを使いましょう。なお、英語のイディオムに *see better days* という表現があります。「我が世の春を謳歌していた」→「いい思いをしていた」と言い換えると使えそうですが、英語の比較級は面白いです。これを *have seen better days* と使うと「昔はよかったです(こんなではなかった)」→「いまはもう峠を超えて(落ちぶれて)いる」という意味になってしまって、もちろん、ここでは使えません。*see better days* は、もともと、たとえば、Don't worry. We'll see better days. (心配するな。そのうちいい日が巡ってくるよ。)(マケーレブ・岩垣『英和イディオム完全対訳辞典』(朝日出版社)のように使う phrase です。

★「ヤキがまわる」は、ここでは「頭・動作・腕が鈍る」(*get slow*)とか「やる気を失う」(*lose one's get up and go*)という意味ではなく、「力がかけってきた」くらいの意味でしょう。find their power waning とか *be losing their power*, あるいは *be just powerless* などを使う

ことになります。